

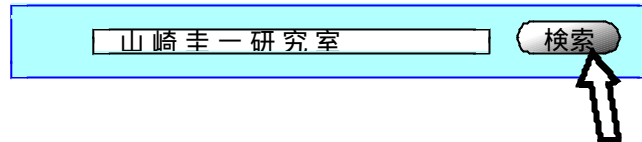
2007年 途上国経済講義レジュメ(学部用) 横浜国立大学経済学部 山崎圭一

第20回
(後期第7回)
11月22日

本講義のサイトへの

アクセス方法

- 1 URLを直接入力する：http://park23.wakwak.com/~latin_america/index.html
- 2 大学のHPから順にナビゲートしていく。<http://www.ynu.ac.jp>
- 3 検索サイトで、「山崎圭一研究室」と入力して、検索する。



本日の習得目標



先週の復習と今週のテーマが、2つがまざってしまっていますが、共通しているのは、「国家論」「福祉国家」といった視点から社会を観察するという視点を、獲得することです。

1 スケジュール、講義計画

- | | |
|---------------------|-----------------|
| ・第19回(後期第6回)11月15日 | ブラジルの貧困問題と、その対策 |
| ・第20回(後期第7回)11月22日 | ラテン・アメリカの歴史 |
| ・第21回(後期第8回)11月29日 | |
| ・第22回(後期第9回)12月6日 | |
| ・第23回(後期第10回)12月13日 | |
| ・第24回(後期第11回)12月20日 | |
| ・第25回(後期第12回)1月10日 | |
| ・第26回(後期第13回)1月17日 | |
| ・第27回(後期第14回)1月24日 | |
| ・第28回(後期第15回)1月31日 | |
| ・学期末試験 | 2月7日 |

全世界的なトピックを中心に

- ・途上国の公害、環境問題
- ・日本のODA
- ・日本の外国人労働者
- ・「内発的発展」
- ・リクエストのあるトピック

全学的な講義終了日は、年内は12月21日(金)です。ただし、25日、26日が補講日(全学的に)です。本講義は、補講は、ありません。

【シラバスとの比較】シラバスは、以下。

http://park23.wakwak.com/~latin_america/syllabus_2007_developingeconomies.pdf

2 前回の補足

(1)アンケート結果

「良い方」18、「平均よりやや上」37、「平均よりやや下」17、「悪い方」3、
同じくらい(欄外)1 合計76 (以上事務方にきっちりカウントしてもらいました)

なお理想の講義に近いかどうかについては、ほぼ全員が、「離れている」でした。

「非常に離れている」が約5名、「理想に近い」が約15名。(まだ完ぺきに数えてませんが)

(2) 「貧困ライン」の話

A 国際貧困ライン

1日1米ドル以下で暮らす人。この1米ドルはブラジル通貨ではいくらか。この換算には購買力平価(PPP)、とくに相対的購買力平価を使うが、その算出方法は世銀方式とCIP方式の二通り。いずれにせよ、PPPでの為替レート算出はたいへんな作業で、世銀は関係団体であるInternational Comparison Programmeに委託している。そのHPには、この算出についての詳細な情報が掲載されている。

<http://web.worldbank.org/WBSITE/EXTERNAL/DATASTATISTICS/ICPEXT/0,,menuPK:1973757~pagePK:62002243~piPK:62002387~theSitePK:270065,00.html> 検索サイトで、上記機関名を打ち込むほうが、速い。

CIPとは、ブラジルに本部を置きつつ国連開発計画(UNDP)と連携して活動している「貧困国際センター」(CIP: Centro Internacional de Pobreza)のこと。

「相対的」とは、基準年をまず決めて、その基準年のPPPレートを割り出した上で、その後の両国の物価増減率を勘案して、現時点のPPPレートを算出することを意味する。通貨によって基準年が異なり、衆知のように円/米ドルでは1973年を基準年とすることが多いが、ドルとリアルについては、1993年を基準年としている。

CIPによれば、世界銀行は、当初85年をPPPの基準年にした。その後基準年を93年にかえたときの方法が問題だという。そのため現行の貧困ラインのリアル表示の値が低めになり、それ以下の人口数も低めに算出されるという。CIPのカクワニは、この点や他の問題点を考慮した新しいPPP換算法を提案している(Kakwani, Nanak(2004), "New Global Poverty Counts" in IPC(International Poverty Center)/UNDP(ed.) *In Focus*, Brasilia: IPC/UNDP(online publication), September-2004 issue)。

「国際貧困ライン」からみると、世銀の計算では、二〇〇一年のブラジルのライン以下の人々は1400万人(総人口の約8%)、CIPの計算では2430万人である(同約14%)。

B ブラジルの国別貧困ライン

「極貧(extremely poor)ライン」と「貧困(poor)ライン」の二つがあり、「極貧」は最低賃金の4分の1、「貧困」は最低賃金の半分である。「極貧人口」は、2005年で総人口の11.1%だと、大学研機関のネットワークが計算している。

なお貧困を所得ではなく、アマルティア・センが理論化した「人間開発」「well-being」「自由」の観点などから考察すると、児童労働、家庭内暴力、ドラッグの広がり、警察官によるストリート・チルドレンへの過剰取締まりなど、問題は経済問題から社会問題に接続して、より大規模になる。

以上、国連開発計画のブラジル本部のインターネットサイトの"Estudo indicadesafio antipobrezano Brasil"(2007年10月26日記事)および"Bird minimizan número de pobres, diz estudo"(2004年11月19日記事)による。それぞれサイトのURLは、

http://www.pnud.org.br/pobreza_desigualdade/reportagens/index.php?id01=2802&lay=pde

http://www.pnud.org.br/pobreza_desigualdade/reportagens/index.php?id01=818&lay=pde である)。

(3) ブラジルは「福祉国家」か

「福祉国家」の定義の考察に立ち入る紙数はないが、

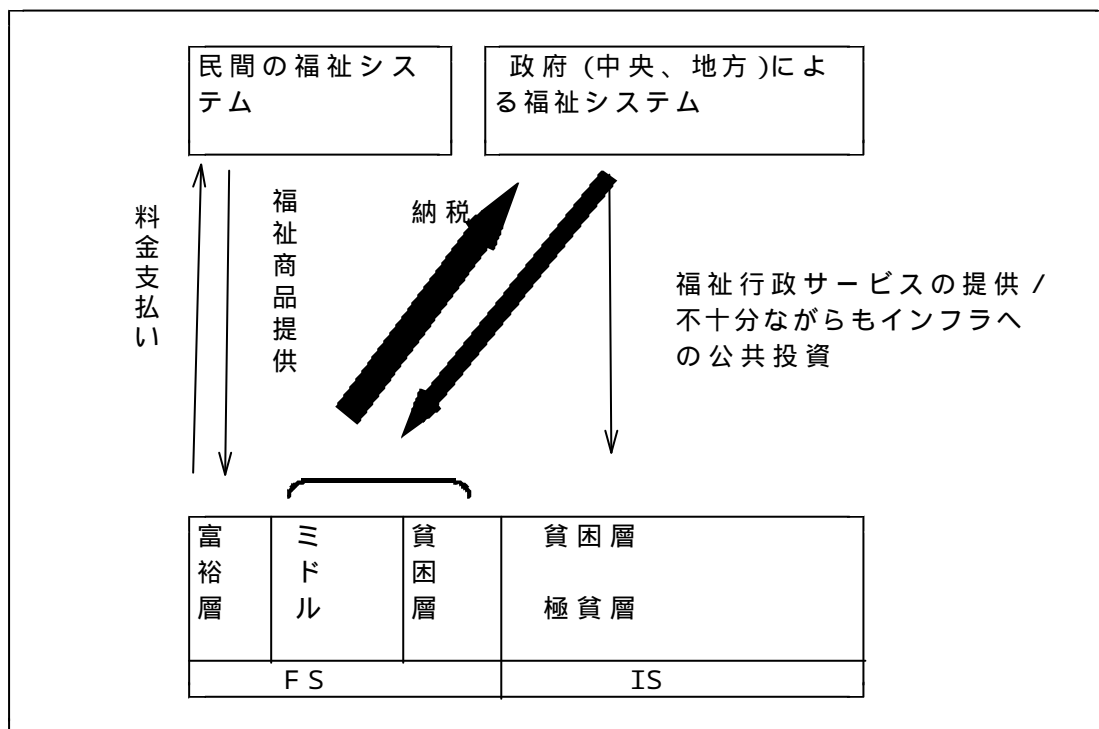
- ・ 財政民主主義、
- ・ 累進的所得税による所得再分配、
- ・ 社会福祉関係支出、
- ・ 公共事業による雇用創出・失業対策、
- ・ 国による後進地域の財政支援、
- ・ 軍事活動による外交などの有無や程度、

などが、一応のチェック・ポイントだろう。最後の、軍事活動による国際協調・緊張関係の維持は、福祉とは無関係に見えるが、現代の主な「福祉国家」はすべて「軍事国家」だということも事実である。

IMFのセグラ・ウビエルゴは、国家論・財政学と計量経済分析の両方に長けたエコノミストだが、本年刊行された秀作で、福祉向け財政支出の対GDP比水準を含めた指標からラテンアメリカ主要国を、「福祉国家」と「非福祉国家」に分類している（Segura-Ubiergo 2007）。

福祉国家：チリ、ウルグアイ、ブラジル、コスタリカおよびアルゼンチン、
非福祉国家：ベネズエラ、エルサルバドル、ペルー、ドミニカ共和国、メキシコ、パラグアイ、エクアドル、ボリビアおよびグアテマラ。

ブラジル外務省の愛称は「イタマラチ」であるが、イタマラチのインターネット・サイトに、「ブラジル福祉国家」という短いエッセイが掲載されている（先週のハンドアウト）。著者はアンドレ・セザール・メジシという、保健衛生や福祉財政を専門とする研究者である。彼は、1970年代、80年代にブラジルは保護されない貧困者を救済して、社会政策のユニバーサルティを達成するために、「疑似（イミテーション）の福祉国家」をめざしたが、達成できず、貧者も富者も結局公的保護網から漏れたままだという。とくに富者は民間システムを利用し、今や公的制度に期待していない（図参照）。不完全な状態のまま、九〇年代以降「小さな政府」路線へと移行し、現在に至っている。つまり「福祉国家」として成熟する前に、「福祉国家」の危機を迎えたという。



< 参考文献 >

- Segura-Ubiergo, Alex (2007), *The Political Economy of the Welfare State in Latin America: Globalization, Democracy, and Development*, Cambridge University Press
- Sokoloff, Kenneth L. and Eric M. Zolt (2007), "Inequality and the Evolution of Institutions of Taxation: Evidence from the Economic History of the Americas," in Edwards, Sebastian, Gerardo Esquivel and Graciela Márquez (eds.) (2007), *The Decline of Latin American Economies: Growth, Institutions, and Crises*, University of Chicago Press

3 今週のテーマ：ラテン・アメリカの歴史

3-1 概論

・植民化される前

アステカ文明、マヤ文明
インカ帝国（タユワンティンスーユ）
ブラジルの先住民

（脱線だが、現在では、2000年の人口センサスで約70万人、総人口の約0.4%、90年から倍増で、興味深い現象だが、インディオとしてのアイデンティティの向上が

一因かと言われている。現在587箇所、居住拠点があるとされている。ブラジル全土の12%を占める面積に、散在している。215の部族にわかれ、言葉は180ある。有名なヤノマミ族は12、000人。いまだ白人との接触を経験していないグループは、2002年で45あると、いわれている。以上 *Almanaque Abril* というブラジルの街角のキオスクでうっている、代表的ブラジル年鑑の2004年版より。

・植民地時代

中米

南米スペイン領

南米ポルトガル領

カピタニア制(15の州に)

総督府 副王領へ

・労働力をどう確保したか：

先住民か、奴隷か

・独立(1822年)：イピランガの叫び

米国のように、独立戦争を通じて「市民社会」をつくったわけではなく、帝国(帝政)へ移行

・共和制へ移行(1899年)：米国になって連邦主義へ

・ヴァルガス革命で、「福祉国家」へ

ブラジルの「ポピュリズム」

「ポピュリズム」とは、何か

3-2 1つの視点から、専門的に、歴史をみる

(1)教育論から

19世紀の教育改革

「普通教育」って、何か？

(2)租税史から

・砂糖産業への課税

・貿易、輸出、輸入への課税

・奴隷貿易、奴隷登録への課税

・通行、旅行税

・固定資産税は？

1922年、ようやく所得税へ

なぜ、所得税が遅れたのか？

『貿易と関税』誌への原稿から(刊行前のなので取扱注意)

インターネット版からは、削除。

(3)経済史の観点から

どの段階から、資本主義なのか

世界資本主義論の観点

一国資本主義分析の観点：国家資本主義論 / 国家独占資本主義論